平成28年度　能美市立福岡小学校　学校評価（中間評価）

重点目標（めざす姿）		具体的方策	主担当	【評価指標】<成果指標><努力指標><満足度指標>	【評価の根拠】達成度判断基準	取組状況	評価	学校関係者評価者による意見	今後の改善策
1	組織的な学校運営	①(校長ビジョンの具現化)　学校経営ビジョンの具現化を図るため、主任等を中心として、同僚性・専門性を活かし、全職員が協働する学校づくりをめざす。	教頭	<成果指標> 主任等のリーダーシップのもとで各分掌が組織的に運営されている。	【教職員アンケート】 組織的・機能的に運営されたという教職員の意識の割合	【教員アンケート①93%】 教育活動全体の運営を運営委員会で図り、その上で3部会に分かれて計画実施している。各主任が部会で中心となって指導助言を行い、チームとして実践をすすめている。	B	「学校が楽しい」と答える児童の割合が高いのは、やはり「友達と遊べること」が大きい。休み時間などの友達と自由にふれ合える時間を大切にし、確保してほしい。 また、先生方と児童がふれ合う時間を十分取れるよう配慮してほしい。	各部会の運営はチームとして円滑に行われているが、単発的で成果や課題を共有し次につなげるに至ってはいない。部会同士の連携によってさらに深まり効果を上げることをねらう。
		②(安全指導・危機管理)安全対策や危機管理の指導力を高め、いじめ・不登校等の課題には、組織的に迅速・的確に対応する。	教頭	<努力指標> いじめ・不登校に対し定期的な児童アンケートや面談で早期発見し、問題には、関連機関との連携を進めながら、早期で適切な対応に努めている。	【児童アンケート】【教職員アンケート】 教師と児童、児童同士の良好な人間関係が成立し、危機的な問題には早期発見・早期対応に努めているという割合	【児童アンケート⑬96%、教員アンケート②93%】 担任は自学級の児童についての情報交換を積極的に行い、「全ての職員で全ての児童の育成を見守る」意識が形成されている。組体操・水泳指導には常に複数での指導を行った。	B		職員全体のアンテナを常に高く持ち続けること、決して一人で抱え込まないことを大切にする。気がかりな児童や保護者とは、躊躇せず面談等を行い、安心安定した気持ちで通学できるように努めていく。交通事故があり、校内外の安全指導を一層充実させる。
2	知（確かな学力の育成）	①(授業改善と授業力の向上) 全ての子どもがわかる・できるように工夫・配慮された授業改善を行い、「学力向上ロードマップ」に従って組織的・継続的・積極的に学力向上に取り組む。	学習指導部	<満足度指標> 児童がわかる・できるように授業改善し、児童の実感となっている。 また、学力向上ロードマップの確実な実践に努めている。	【児童アンケート】【教職員アンケート】・授業内容がわかるという児童・保護者の割合・学力向上ロードマップに従って取組ができているという教師の割合	【児童②87%教員③100%保護者②88%】児童・教師とも、わかるできる授業のイメージをもって取り組めた。また、教師が明確な「ねらい」「課題」を設定しわかるできる授業に取り組んできたことで児童も学習に対する積極性はみられるようになった。再テストを行う等、個別支援の必要な児童に対する手立てを工夫している。	B	「ゆとり」と言われたころに比べて、各教科の授業時数が増えている。その中で、学力調査の対策など先生方も忙しいと思う。点数重視になりがちだが、子ども一人一人の全体的な成長を認めてほしい。 内容を厳選し、めあてをはっきりさせて、意欲が上がる工夫、心を育てる教育を行ってほしい。 基礎基本の充実はどのような取組でも最も重要であり、どの子にもきちんと定着させてほしい。	学力向上ロードマップの確実な実践とより効果的な取り組みを工夫していく。組織的な取り組みに向けて他の部会との連携を考え実施する。また、低・中・高各部会での教材研究や「若手研究」を進める中で教材理解・児童理解を深め、授業力向上を目指す。
		②(基礎・基本の定着)　「きらめきシステム」を充実・発展させ、計画的・組織的に検証と改善を重ね、基礎的知識・技能を定着させる。	学習指導部	<成果指標> 「きらめきシステム」が計画的・組織的に運営され、基礎・基本を定着させるものになっている。	【教職員アンケート】きらめきシステムが検証・改善され、基礎・基本の定着につながっていると感じる教師の割合　能美っ子漢字・計算テストの検証	【教員④100%】朝の「きらめきタイム」では、全校で集中して取り組んでいる。放課後の「チャレンジ学習」「リソース+」においては、支援の必要な児童への手立てや工夫が必要である。	B		より基礎基本の向上につなげるために、担任との連携を密にし、T2（級外）の配置を含め、計画表を作成しそれに基づいて取り組む。成果と課題を共有し、具体的な改善策を講じる。
		③(学び合い・言語活動、活用力の育成)　全ての教育活動で適切な言語活動や主体的に学び合う活動を充実させる。相手意識を持って筋道や根拠を明確にして表現する力やプレゼン能力を育成する。	学習指導部	<成果指標> 自分の考えを根拠や筋道を明確にして表現する言語活動を適切に進めることで、学び合う意欲を高め、活用力の育成につなげる。	【児童アンケート】【教職員アンケート】相手意識をもって意見を交流して、考えを深めたと感じる児童と教師の割合	【児童③83%④94%教員⑤86%】有効な言語活動・学び合いを工夫してきたことにより、学び合いう意欲の高まりはみられたが、交流活動によって考えを深めたり広めたりする実感はもってていない。	B		課題を焦点化し、取組を具体化する。模範となる交流のモデルを教師側がイメージを共有しその姿に向かうための具体的な方策を考え児童に可視化意識化させることを大切にして実践を重ねる。全学級の授業を公開し共通理解を図る。
		④(学力の検証) 学力調査の分析結果を共通理解し、分析から得た課題に迅速に取り組み、計画的に学力の向上をめざす。	学習指導部	<成果指標> 学力調査の分析・考察による方策を各教科の指導にいかし、計画的に取り組んでいるという教師の割合	【教職員アンケート】分析から得た方策を指導にいかし、計画的に取り組んでいるという教師の割合	【教員⑥100%】調査実施後、すぐに採点・分析を職員全員で行い、課題を洗い出して、改善策を講じた。8月の校内研で、取組の重点を再確認し、一丸となって取組む。	B		校内研修会で、学力向上プランの検証と見直しを行い、重点項目の共通理解をする。また、日々の授業にいかすよう、指導計画簿の活用を工夫、検証して全員の確実な実施につなげる。
3	徳（豊かな心の育成）	①(開発的な生徒指導)　人間関係エクササイズやほめ言葉シャワー等で児童の自尊感情を高め、親和的な学級をつくる。	生徒指導部	<成果指標> 親和的な学級づくりが進み、自己肯定感や共感的な人間関係が醸成されている。	【児童アンケート】【保護者アンケート】【教職員アンケート】児童一人一人が自己の役割を持ち、互いに認め合い大切にされている学級と感じる3者の割合	【児童アンケート⑤82%】、【教職員アンケート⑦86%】ほめ言葉シャワーに関する研修会を行った。また、校内にあいさつ通りを設置し、あいさつの習慣化に取り組んだ。	B	地域でも「あいさつ」は課題である。基本的な挨拶ができることが対話や学びにつながる。あいさつ運動のようなイベントだけでなく、どこでいつ会っても自然にあいさつできるようになって、「身についている」と言えるので、学校でも、地域でも家庭でも、見守り声かけていくことが必要。 奉仕・美化活動から心を育てることも大切である。 「きれいになった」「すすんでいいことをした」ということを認める取組を工夫してほしい。	あいさつの必要性について考え道徳の授業等の推進を行う。また、あいさつデーには、各学級が主体となってあいさつ運動を行うことで、児童の主体的なあいさつの定着がすすむように努める。
		②(環境保全・奉仕活動の推進)　校内の美化活動をはじめとした環境保全や、ボランティア・奉仕活動への取組を進める。	生徒指導部	<成果指標> 誰かの役に立つことの大切さに気付かせ、自分から気づいたことを行動に移す取組を進めている。	【児童アンケート】【教職員アンケート】『気づき清掃』をはじめとする環境美化や奉仕活動に取り組んでいるという児童の割合、また、推進しているという教職員の割合	【児童アンケート⑥88%】、【教職員アンケート⑧64% 気づき清掃や各種奉仕活動の中で、自己有用感を育む取組を提案してきたが、継続的に実施されていない。	C		気づき清掃の意義を教員も児童も研修会や集会等で共通理解する場を持つ。掃除終礼では「友だちの良かった所を言う」時の視点を提示するなどあらゆる場で「見る目」を育てる。掃除をはじめとして、小さな頑張りも認め、また認め合えた児童の様子を担任に伝える。
		③(道徳教育)郷土愛をはじめとする重点項目を中心に道徳の時間を充実させる。また、豊かな体験を活かし、教育活動教育活動全体を通して心に響く道徳教育を推進する。	道徳教育推進教師	<努力指標> 道徳の公開授業をはじめ、計画的に授業実践を行う。また、教育活動全体で、体験的な活動を通して、郷土愛をはじめ心に響く道徳教育を行っている。	【児童アンケート】【教職員アンケート】道徳の時間に学んだことを日常生活の中でいかそうとしていると思う児童の割合　郷土愛をはじめとする重点項目を中心に響く道徳の授業実践に努めているという教師の割合	【児童ア⑧86%教職員⑨92%】部会ごとに公開授業の指導案を検討したり、指導計画に別業を綴ったり、道徳の授業づくりについての意識向上を図った。また、板書の写真を集めるなど心に響く道徳の授業力向上に努めた。	B		引き続き声かけして道徳の板書や資料を貯めていく。また、学年ごとに担当月や担当週を決め、板書を掲示し紹介してもらう場所を作る。道徳に関する学級通信等を全教員に配布し教育活動の様々な場面での道徳教育につなげていく。
		④(読書指導)　昼読書等の多読による量的な指導を活かし、教科に関連させて読書の質の向上をめざす。	学習指導部	<努力指標> 教科での並行読書や調べ活動での図書館活用が行われている。また、昼読書、家庭での読書活動の推進に努めている。	【教職員アンケート】【児童アンケート】目標を達成するために努力したと思う教職員の割合　また、各学年のおすすめの本を読んだという児童の割合	【児童⑨88%】【教員アンケート⑩93%】さまざまな教科において、図書館の活用が活発に、意識的に行われている。いろいろな取組を通して、図書館の本だけでなく、教室の学級文庫や、学年のおすすめの本を読む子も増えてきている。	A		教員評価には、取組の推進に消極的な割合も見られる。また、児童の関心に個人差や内容のばらつきがあり、読書月間等の取組を工夫することでより充実を図っていく。
4	体（健やかな身体の育成）	①(基礎体力づくりと体力の向上) 同学年異学年との多様な遊びを通して、基礎体力を高める。また、「スポチャレ」や各種取組で目標を持たせ、粘り強く・楽しく運動に親しみ、体力を向上させる。	保健体育部	<満足度指標> 休み時間には、積極的に友達と仲良く遊んでいる。また、自分たちで立てた目標に向かって意欲的に各種運動に取り組んでいる。	【児童アンケート】【教職員アンケート】休み時間に積極的に仲間と遊んだという児童の割合 また、目標に向かって運動したという児童　及び　目標を持たせる基礎体力作りをすすめたという教職員の割合	【児童⑩92%教員⑪79%】 廊下にミニ運動コーナーを置き、気軽に柔軟等に取り組めるようにした。休み時間には体を使って遊ぶ児童が多いが、スポーツテストでは、持久力に課題があることがわかった。	C	安全指導を徹底することで、児童も「見守られている」という安心感が持てる。 近年、外で遊ぶ子が少なくなってきているが、スポーツで学ぶことも多いと思う。持久力・粘り強さを学校でも身に着けてほしい。 また、身の回りの整頓は学習にもかかわってくるので、声掛けの継続をお願いしたい。	2学期は鉄棒旬間や持久走旬間、スポチャレの取り組み等で、全校的に体力を高めるように取り組む。
		②(安全指導の徹底)　体育活動・給食活動での安全対策・安全教育を徹底し、事故のない活動を確保する。	保健体育部	<努力指標> 安全指導を徹底し、けがや事故の防止に努め、児童の危機回避能力育成のための努力をしている。	【児童アンケート】【教職員アンケート】安全指導の徹底と児童の危機回避能力の育成に努めたという教職員の割合 また、けがや事故に気を付けて活動できたという児童の割合	【児童⑪93%教員⑫93%】運動会の組体操や水泳指導では、安全に取り組めるように指導の人数を増やして、目が行き届くようにした。	B		安全に楽しく運動ができるように、各運動の安全確保について共有する場を持つ。体育の時間等でいろんな準備運動や技のこつを指導するなかで、児童の危機回避能力育成につなげる。
		③(健康教育・生活リズムの確立) 家庭学習やネット対応をはじめとする自らの健康や生活に関心を持ち、進んでよりよい生活習慣・食習慣づくりに取り組む。	保健体育部	<成果指標> 「早寝早起き朝ごはん」「家庭学習強化週間」に積極的に取り組み、児童の生活リズム・学習習慣が整っている。	【児童アンケート】【保護者アンケート】生活リズム・学習習慣を整えているという児童の割合 また、各取組を通して児童の習慣が向上したと感じる保護者の割合	【児童⑫87%保護者④74%】 早起きの取組では、マスコットを募集し、進化させる等関心を高める工夫をした。家庭の協力もあり、9割以上の児童が早起きを達成することができた。	B	新幹線工事の影響がある地域については、安全確保について、学校と工事関係者・地域が連携していく。	取り組み期間中に高まった意識を継続していけるように、呼びかけを続ける。また、早寝や朝ごはんの意義についても教科の学習や食育と絡めて取り組む。
5	家庭・地域との連携	①(基本的な生活習慣)　保護者と連携して、PTA活動の活性化を図り、家庭学習と基本的な生活習慣の確立をはかる。	教頭	<満足度指標> PTA活動の趣旨が理解され関心が高まる。また、児童の生活や学習の状況を理解し、家庭での支援が適切に行われている。	【保護者アンケート】【教職員アンケート】学校と連携しながら親子のふれあいや家庭の教育力が活性化したと感じる保護者の割合	【保護者④74%⑨82%教員⑭79%】家庭教育についてはAB評価が8割を切っている。教育の基盤である家庭教育の重要性が共有されていない。PTA活動については役員中心に活動を工夫している。	B	家庭学習の充実について課題を感じているようだが、根上3校で連携するなど工夫して取り組んでほしい。 平和学習や昭和9年の災害の話など、語り部から聞く機会を持てるよう、地域で協力することは可能である。 ぜひ、様々な面で地域連携を進め、学校・家庭・地域が心を一つにして、子どもたちのより良い成長を支えていきたい。 地域とうまく連携できるシステムを作り上げてほしい。	学期毎の家庭学習強化週間を中心に家庭への啓発の仕方を工夫する。PTAとの協働の取組である夏休み親子クッキング等親子の取組を工夫しふれあいを深める中で家庭教育力の充実を図っていく。また、PTAは市Pでの発表を機に活動を理解・協力を深める場をとる。
		②(信頼される学校づくり) ニーズに応じて積極的に学校の情報を発信し、「元気アップ事業」等　地域の人材を活用することで、「開かれた学校」として地域や保護者に信頼される学校づくりを進める。	教頭	<努力指標> 学校について多様な媒体で適切に情報を発信・公開を進め、また、「元気アップ事業」等を進め、効果的な地域の人材活用に努めている。	【保護者アンケート】【教職員アンケート】学校からの情報発信・情報公開や地域の人材活用など「開かれた学校づくり」が進んでいると感じる保護者・教職員の割合	【教員⑭79%⑮93%、保護者⑧91%】クラブ、社会や総合等の学習等で外部人材の活用を図っている。	B		道徳や総合的な学習でのゲストティーチャーの活用をすすめ、児童の『本物』との出会いをさせることで地域への愛着を高める。また、人材を地域に求め応じていただき校内の状況を公開していくことで学校への理解や期待を高める。